

旭硝子株式会社 2015 年度通期決算 主な質疑応答

経営企画部広報・IR 室

【全体】

Q1. プレゼン資料「2025 年のありたい姿に向けて」の15ページに、“2017年までに成長投資による売上高増1,300億円(2015年比)を見込む”とありますが、その内訳を教えてください。

A1. 特に大きいのは化学品のインドネシア・ベトナムの増設で、併せて約500億円。その他は、メキシコの自動車用ガラスの新工場、ポーランドの自動車補修用ガラス会社の新規連結、国内のフッ素製品増設でそれぞれ100～200億円。その他を足して合計1,300億円となる見込みです。

【ガラス】

Q1. 今後のガラス事業の収益見込みを教えてください。

A1. 建築用ガラスはアメリカが着実に回復しています。また、欧州の需要も堅調であり、出荷数量も上向いています。ロシアの景気は依然厳しいですが、AGCのビジネス全体に占めるロシアの割合は大きくないため影響は軽微です。また、自動車用ガラスはメキシコ、中国での新工場の立ち上げが本格稼働するため、利益寄与が期待できます。

【電子】

Q1. 2016年第1四半期の電子セグメントの見通しを教えてください。

A1. 液晶用ガラス基板の出荷数量は前年比で減少の可能性があります。電子部材も通常は第1四半期の出荷は弱いため、全体として電子セグメントは厳しい見込みです。なお、液晶用ガラス基板の価格下落は年々下落幅がマイルドになっており、今年もその傾向が続くと見えています。

【化学品】

Q1. 国内のフッ素事業で販売が伸びると見込んでいる背景は？

A1. 新しい冷媒の事業化と医農薬中間体の増設があります。当社のフッ素合成プロセスがお客様に評価されているため、医農薬中間体の受託製品が増えています。

以 上